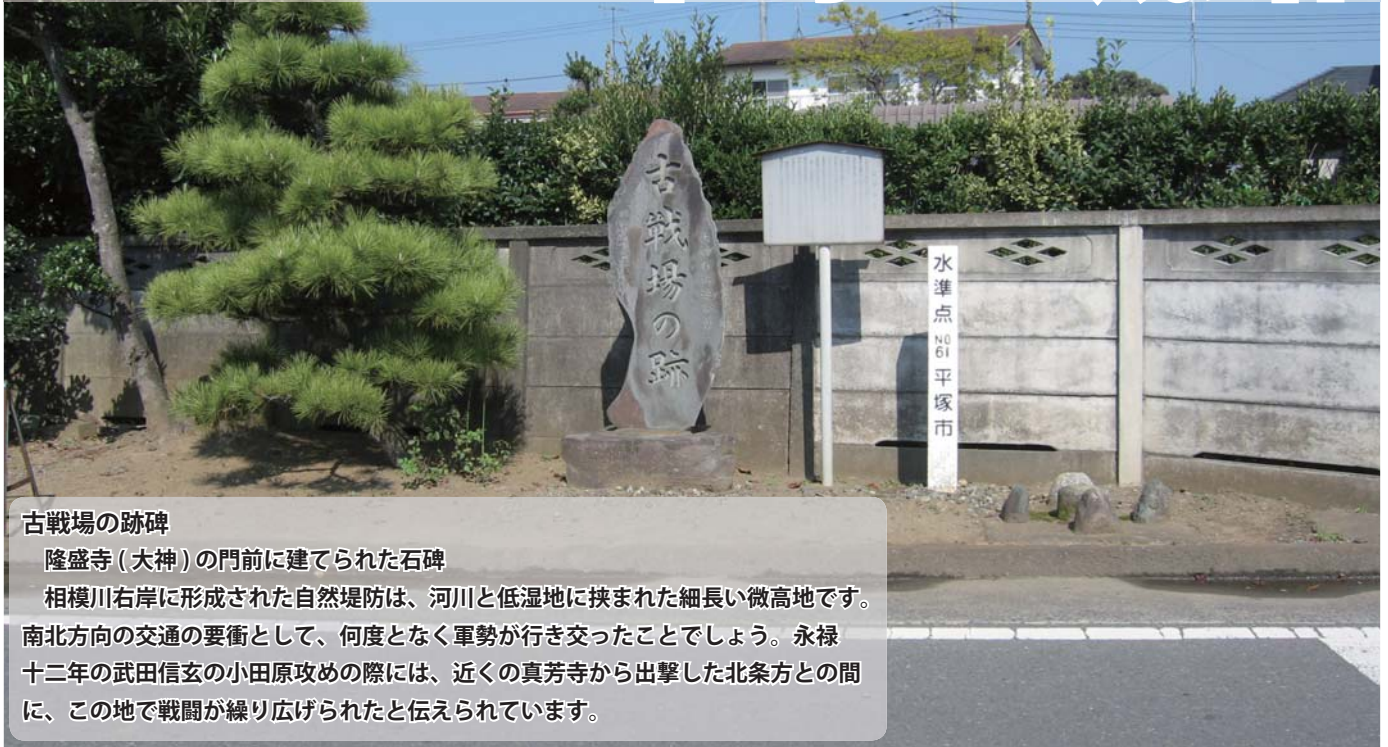


注目の最前線

平塚の城館



古戦場の跡碑

隆盛寺(大神)の門前に建てられた石碑

相模川右岸に形成された自然堤防は、河川と低湿地に挟まれた細長い微高地です。南北方向の交通の要衝として、何度となく軍勢が行き交ったことでしょう。永禄十二年の武田信玄の小田原攻めの際には、近くの真芳寺から出撃した北条方との間に、この地で戦闘が繰り広げられたと伝えられています。

城館とはその名のとおりに「城」と「館」、堀や土塁などの防御設備を持ち、巧みな平面構造で敵の侵入を防ぐ施設を指します。広い意味では弥生時代の環濠集落も含まれますが、一般的には平安時代から江戸時代の「武士の居館」「戦の拠点」がイメージされます。

巷ではまさに歴史ブーム。史跡や戦跡を訪ねると多くの『歴女』『城^{シロ}ラー』『墓^{ハカマイ}参ラー』に出会います。なかでも戦国時代は人気が高く、優美な天守閣や壮大な石垣を持つ城は連日観光客でにぎわっています。ところが、小田原城は別としてどうも相模の城は地味だと思いませんか。

さて、わが平塚を振り返ってみますと、全国的に有名な城があるわけではありません。しかし平塚市域は、古代から中世への転換期に鎌倉幕府の創建に寄与した有力な御家人の多くが本拠を構え、室町期には戦国時代に先駆けて争乱の舞台となり、そして小田原北条氏の物流拠点として機能していたのです。相模国のほぼ中央に位置している平塚は、東西交通と南北交通の交差点として、また陸上交通・海上交通・河川交通の結節点として、歴史上常に重要な意味を持っていたと言えるでしょう。甲斐の武田信玄も越後の上杉謙信も、小田原城を攻撃する際には平塚を通り、陣を構えています。

現在、平塚市内で『城館址』として神奈川県遺跡台帳に登載されている埋蔵文化財包蔵地は岡崎城や中原御殿跡など22か所。その多くが謎に包まれたまま、近年の開発によってその姿が失われつつあります。激動の中世史を探る資料として今後『城館』の実態を解明していきたいものです。

寄贈品コーナー『平塚の城館』

平成23年3月1日(火)～3月30日(水)

平塚市内にある城館の概要と、知られざる城館を探る試みを紹介します。